

西木地域審議会の意見

1 定住人口3万人の確保と交流人口1,000万人の具体的方策について

- * 定住促進のため、若年者のみならず中・高齢者も働ける仕事場の確保、企業誘致は不可欠であり、西荒井地区に用地も確保できているので、早急に対策を講じて欲しい。
- * 定住促進のため、本地区は小規模校で教育も1人1人に目が届く環境であり、『子育てしやすい仙北市』を謳い、例えば給食費負担無しなどの市独自の施策を創設して欲しい。
- * 秋田内陸線の存続は、仙北市の定住人口の確保の面で必要不可欠であり、交流人口1,000万人を目指すうえでも観光の目玉として、切に存続を要望する。
- * 定住促進のためには、医療体制の充実が不可欠であり、30分以内で病院に行けるシステム作りが必要である。また、市内子弟の医師養成の助成制度を創設して欲しい。
- * 市のホームページを活用した空き家情報の提供により、仙北市の自然を楽しむ季節滞在を促進し、定住につなげる。
- * 垂天地沼まで車で行けるようにする・大覚野牧場で牛肉の販売または食べさせるような開発を推進し、レジャー産業を開拓して欲しい。
- * 独身者の結婚問題は切実であり、市としての取り組みが欲しい。
- * カタクリ観賞者用の駐車場が不足しており、駐車場と道路の拡幅をして欲しい。
- * 観光ルート周遊コースとして、市道小山寺・下田線を改良して欲しい。
- * グリーンツーリズムの促進の観点から、宿泊施設を増やす施策を推進して欲しい。
- * 旧西木村計画にあったクリオンの温泉を利用したプール施設の建築をして、水泳人口の集客を図って欲しい。
- * 国道105号の潟野以北の改良を切に要望する。
- * 交流人口1,000万人達成のためには、観光協会の一歩化が望ましいため、行政主導で行って欲しい。

2 廃校舎の利活用について

* 仙北市のグリーンツーリズムの拠点施設（宿泊滞在型）

当地域の恵まれた自然環境や周辺資源の魅力と風土や文化は、農山村の新たな地域興しを図るためのグリーンツーリズムを展開するうえで、最適な地域と思われる。

当施設を「仙北市のグリーンツーリズムの拠点施設」として整備することにより、自然体験や農林業体験等を通じて、都市住民との交流や地域活性化の促進を図るものである。

加えて、観光や地域産業との連携により、内陸縦貫鉄道利用者の促進や、田舎暮らしの推奨による定住促進を促すものである。

* 独居老人世帯等の共同居住施設

当地域の過疎化の進展は、多くの集落で独居老人や老人世帯が発生し、限界集落へ進みつつある状況にある。そうした中、老人世帯の実生活は、冬期間の雪対策や、老老介護問題、衣食住の維持に多くの不安を抱える状況である。この地区では高齢者施設「山鳩館」が存在しており、そこと連携した共同居住施設を整備して欲しい。

* 温泉掘削

平成9年に当地区で施工し、湯量不足であった温泉掘削工事を再掘削し、温泉のある施設としたい。